ドーピング防止活動推進事業

（前年度予算額：158,527千円）
【拡充】29年度要求額： 299,904千円

我が国はこれまでユネスコ「スポーツにおけるドーピングの防止に関する国際規約」を踏まえ、「国の役割」であるドーピングの防止に関する教育・研修・研究を行っており、国際的にも高い評価を受けてきた。

昨今のロシア陸上界の組織的なドーピング疑惑及びオリンピック選手等によるドーピングの発覚等を受け、**世界的規模で、アスリートやサポートスタッフのみならず、一般、特に若い世代への幅広い教育・研修活動及び巧妙化するドーピングの検出手法の開発が課題**となっている。我が国は、世界ドーピング防止機構（WADA）のアジア地域を代表する常任理事国として、RWC2019及び2020年東京大会等の開催国として、**2015年1月改訂の世界ドーピング防止規程及びWADA・IOC等からの国際的な要請に応じ、ドーピングのないクリーンな環境を整備することが求められている。**

我が国において、**ドーピングゼロを実現することは、2020年東京大会の成功の鍵**であり、更に、**クリーンな日本を世界へ発信し、ドーピングの撲滅を牽引していくことで、2020年を超えて、スポーツ立国としての地位を確固たるものとする。**

ドーピング防止教育事業

日本からドーピングゼロを発信、国民全体が公平で公正なスポーツの価値を共有できる社会へ

【従来】

■ アスリート、サポートスタッフへの研修会の実施

2020に向けて ＋

2020に出場する可能性があるユースへの教育強化
アスリートのみならず、コーチ、親・兄弟等への教育強化（より分かりやすい教材の開発、指導者の養成）
→日本人からドーピング防止規則違反者をゼロに

スクールプロジェクトの実施
初等中等教育から高等教育まで、学校教育課程におけるスポーツの価値教育を促進するため、教材・指導マニュアル開発、モデル校の設定や認定制度導入

ドーピング防止研修事業

ドーピング検査員、医師、薬剤師等の専門家育成によるクリーンなアスリートを守る統合的アプローチ

【従来】

■ ドーピング検査員養成講習会実施
→ 検査員の養成

2020に向けて ＋

ドーピング検査員(DCO)の育成強化：スキル向上
講習会充実・自己学習用アプリ開発・実地研修増
→コミュニケーション能力の強化、多言語能力の強化

国際ドーピング検査員(IDCO)の育成強化：モビテリティ向上
→2018平昌、2020東京、2022北京など各大会のコスト↓効率↑
→IDCOのキャリアパス形成

医師、薬剤師等への研修
専門学習用アプリの開発・講習会等の実施
→アスリートの禁止物質のうっかり摂取を防止

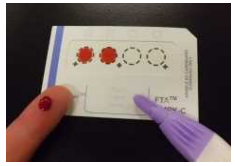
ドーピング検査技術研究開発事業

ドーピング検査体制のイノベーション（クリーンなアスリートを守る、精神的・身体的負担のない検査体制の構築）

最先端質量分析技術・機器を利用した検査手法開発
（例：乾燥血液スポット分析の導入）
→アスリートの精神的・身体的ストレス軽減、検査コスト削減

進化するドーピングに対応できる検出手法の開発
→外因性物質を直接特定する効率的で高質な分析の実現
→新出手法（例：Micro Doping）等への対応

研究開発 →



2020東京大会試行 →

新しい国際的なドーピング防止体制の構築に向けた議論
- □ 独立検査機関設置に向けた国際的検討への参画強化
- □ WADA、IOC等国際機関の議論への参画強化